

2022年3月7日(月)晴れ、風なく穏やか。昨日は佐原の町に宿泊した。今日は11kmのコース中に、7か所の寺社を訪ねるが、寺社間を結ぶ道が自然豊かで素敵な里山道となっており、今まで歩いてきた埼玉県秩父のコース、茨城県の八溝山地、筑波山麓コースと一味違った素敵なトレイルとなっている。



昨日佐原の町に泊まったから、今日の出発は千葉県香取郡佐原町となる。

佐原駅はJR成田線の駅であるが、国選定伝統的建造物群保存地区があるために、和風の駅舎にしたのだろう。赤いポストが絶妙だね！ 1898年(明治31)開業、2011年(平成23)駅舎を歴史の町にふさわしく建て替えた



電車で二駅目が今日の最寄り下車駅下総神崎駅だ。8:47着、昨日ゴールした駅である





駅前の案内に従って神宮寺を訪ねる。笠石の乗る石柱には、佐原道の表示があった



「神宮寺山門」 昨日拝観した神崎神社の旧別当寺。神仏分離令でここに移された



貞治2年(1363)の大般若波羅蜜多經が有名であるが、本殿は痛々しい程破損している。



次なる目的地は宇迦神社、少し距離がある



ここからは典型的な北総台地(下総台地)で、広大な農地が広がる沖積低地を歩く



道は標高 20~40mの台地の縁を巡るように設定されている



宇迦神社へは、瘡守神社(疱瘡の神)の階段を上って、台地の尾根に出る



「宇迦神社」の脇を通り、北総台地の森を通り抜ける



次の社は常福寺、道標通りに歩いて行こう、快適なトレイルだ



珍しく石板の道標があった。枯れ葉と草に半ば埋もれていた



成田ゆめ牧場の一角にあるオートキャンプ場脇を通る。昔は広大な牧場であったと云う



バスの通る名木の集落に常福寺はあった。名木のお不動様として有名



「常福寺」延応元年(1239)湛導和尚の開基と伝える。本尊は不動明王



名木の集落から、また北総台地を下り、沖積平野を行く。



北総地方は約10万年前、氷河期の終わりに大地は削られ、土砂の堆積物で埋まった。海水が後退すると、肥沃な沖積平野が生まれ、現在の様な地形となった。



「樂満寺」安産・子育ての観世音様として有名。建暦2年(1212)国一禅師の開基  
本尊は如意輪観世音菩薩。参道に並ぶ観音様の彫像が見事



境内にあった観音様。日本で见かける像とは違い、膝を立てている。



樂満寺にて、記念に一枚パチリ



次の訪問地小御門神社への道は、七沢集落を通り抜け、小帝(こみかど)集落に行く



千葉に入って初めて、「関東ふれあいの道」石柱だ。この石柱も目立たない所にある



小御門神社の前に成田市立小御門(こみかど)小学校があった。1876(明治9)お寺の本堂を校舎と定める。2014年(H26)生徒数減少により閉校となる、総生徒数4900余名と記念碑に記す、これもご時世なのだろう。



「別格官幣社小御門神社」 後醍醐天皇の側近 藤原師賢を祀る



鎌倉幕府への反旗、元弘の変(1332)で敗れる。後醍醐天皇は隠岐島へ流罪。師賢は下総に流されここで他界、明治15年、明治天皇はここに小御門神社を創建し、御霊を弔った。師賢の墓は社の背後にある



珍しく鉄製の道標が建つ、檀林寺へ0.5kmとある



「檀林寺」天平神護 2 年 (766) 良弁上人の開基、建武 2 年 (1335) の板碑が有名



「龍正院」この仁王門は室町時代の応仁 2 年 (1298) の造りで、国指定重要文化財となっている。しめ縄は、享保年間 (1716) 大火に見舞われたとき、仁王尊が寺域を保護したので、毎年奉納するようになったと伝える。



「龍正院」坂東 33 観音の 28 番札所、通称「滑河観音」天台宗 承和年間 (834-848) 領主小田将治が、11 面観音像を設置して堂宇を建立したのに始まる



龍正院から県道を北へ 20 分、ゴールの JR 成田線の滑河駅(なめがわ)に到着する



13:25 遅れの成田行きに乗車すれば、成田から横須賀線逗子行に接続している。

この項完

[参考タイム]

佐原駅(8:37)→下総神崎駅(8:47-8:57)→神宮寺(9:15)→宇迦神社(9:53)→常福寺  
(10:25-10:30)→樂満寺(10:55-11:00)→小御門神社(12:00-12:30 昼)→檀林寺(12:50)  
→龍正院(13:10-13:15)→JR 滑河駅(13:55)

「関東ふれあいの道(千葉)③古墳を訪ねるみち」に続く